

**Q. ワクチンは、何のために
するのでしょうか？**

**A 病気になってから
治すため**



**A 病気になる前
ならないように**



ワクチンとは？

- ・病気になる前に、体が「守る準備」をするためのもの



ワクチンの作用の一例

ワクチンが病気から守るしくみ

ワクチンを打つ



- ✓ ウイルスの形を覚える
- ✓ ウイルスそのものを入れるわけではない

体が準備する



- ✓ ウイルス専用のバリアを作る

入ってきた時に防ぐ



- ✓ ウイルスの侵入を防ぐ

ワクチンには、自分を病気から守る働きがあります。
病気が人から人へうつるのを減らして、まわりの人を守るものもあります。

ヒトと病気の歴史

昔

 感染症

重い病気

亡くなる人も

今

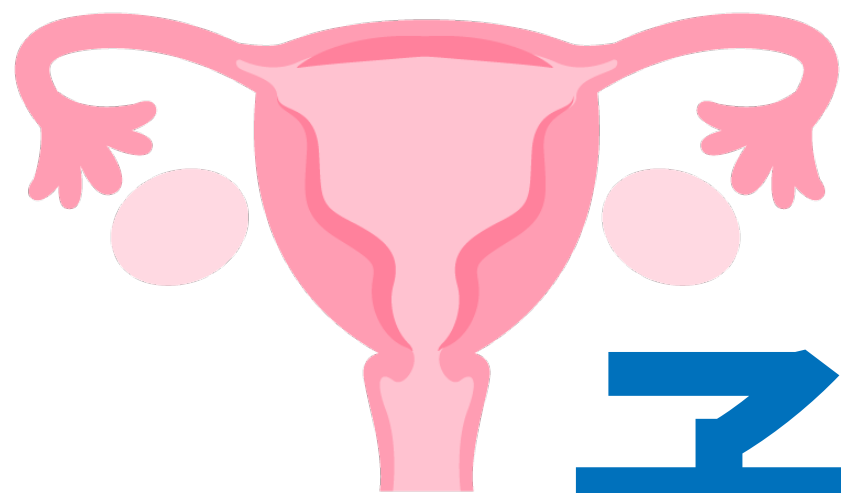
ワクチンが広がる

防げる病気が増えた

天然痘

地球からなくなった病気

ワクチンで防げる可能性のある
「がん」もあります

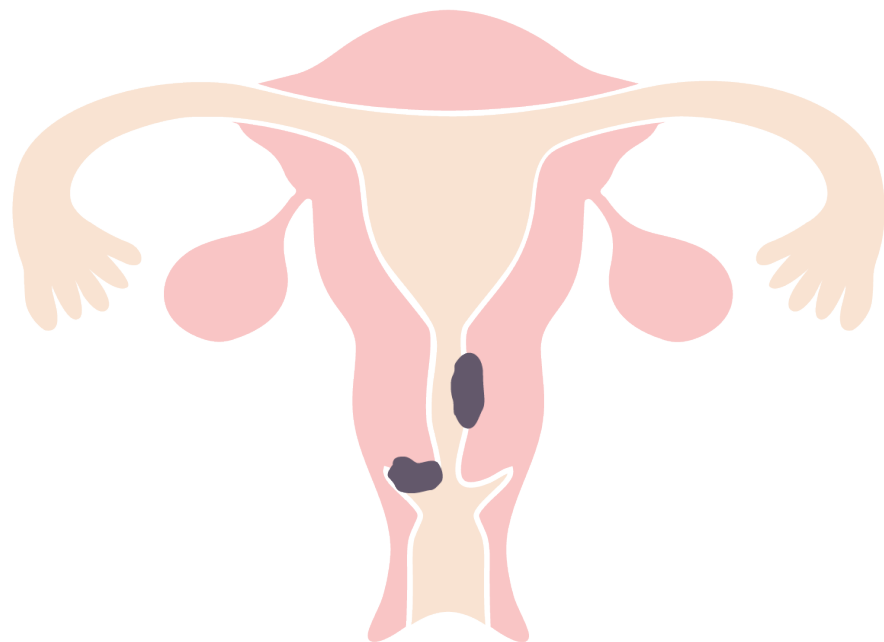


そのひとつが

子宮けいがん

子宮けいがん 子宮の入口に できる「がん」

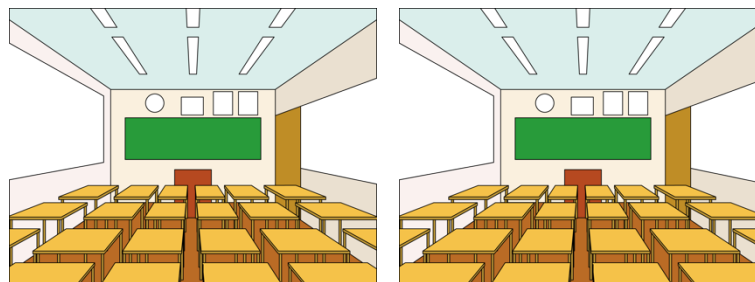
子宮頸がん



若い世代でも
かかることがある

20代からかかる人が増え始めます

めずらしいがんではない



約2クラスに
ひとり

生涯のうちに子宮けいがんになる人は、
1万人あたり約130人（厚労省）

子宮頸がんの多くには、 HPV というウイルスの感染が関係しています

HPV（ヒトパピローマウイルス）には、100種類以上の型があります。
HPV は、特別な人だけが感染するウイルスではありません。
多くの人が感染する可能性のある、
とてもありふれたウイルスです。

HPV は子宮頸がんだけに関係する？

がんに関係する「高リスク型」

16 18

31 33 45

52 58 など

がん以外

6 11

子宮頸がん

膣がん

中咽頭がん

外陰がん

肛門がん

陰茎がん

尖圭コンジローマ

HPVは、女性だけに関係するウイルスではありません

HPV = がん、ではありません

HPV に感染

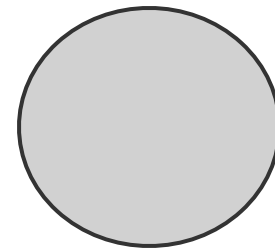
一部
▶

感染が
長く続く

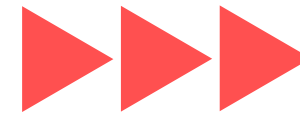


多くの場合

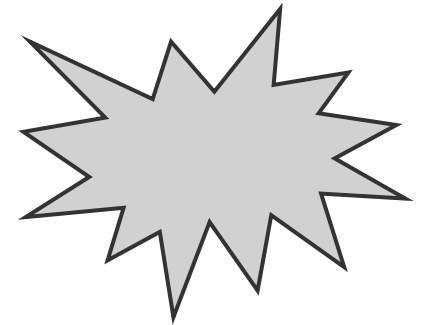
自然に
排除される



細胞



細胞が変化



長い時間をかけて

子宮がん

HPVに感染しても、必ずがんになるわけではありません。

感染する**前**に備えることが重要

1 ワクチンを接種

HPVに似た
「目印」が入る

※HPVそのものではありません



2 体が準備する

こうたい
免疫が**抗体**をつくる



3 HPVが入ってきたとき

抗体が感染を防ぐ

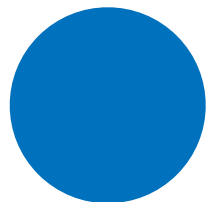


HPVワクチンは、これからの感染に備えるためのものです。

すでにある感染を治す薬ではありません。

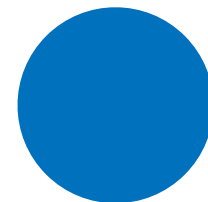
二本柱が大切

HPVワクチンを受けても、大人になったら検診を



HPV ワクチン

感染を予防



子宮頸がん検診

変化を早く見つける

20歳になったら子宮頸がん検診

ワクチンと検診 どちらも大切

不安に思ったら？

「注射、痛そう……」

「具合が悪くならない？」

「ちょっと怖い……」



心配なことは、伝えていい。

🗣️ 「注射が怖い」と伝える

💬 わからないことを質問する

🙋 気分が悪くなったらすぐ伝える

👨 家族や医療者に相談する

ワクチンを打つ？ 打たない？

打ったら「えらい」

打たなかったら「ダメ」

ということでは**ありません**。



知ること。



正しい情報を知ることが、
考える第一歩になります。

わからないことを
聞くこと。



わからないことは、
そのままにしないで大丈夫。

心配なことを
伝えること。



心配なことや不安は、
ひとりで抱えなくていいよ。